

UNI-PEX

取扱説明書(保証書付)



定格出力40W・シングル 300MHz帯 ワイヤレスチューナー付

防滴形ワイヤレスアンプ

WA-371

防水等級:IEC60529 IPX4 [JIS C 0920]

このたびは、防滴形ワイヤレスアンプをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

目 次

安全上のご注意	1~4	マイクオーダーについて	18
特長	5	別売ワイヤレスチューナーユニットの取付方法	19
各部の名称と説明	6~8	ハウリングとデッドポイントについて	20
保護カバーについて	9	トーン切換について	20
収納部ふたについて	10	シンクロドライブについて	21
使用電源について	11~13	操作のしかた	22、23
電池残量について/電池寿命の目安	14	接続例	24
ワイヤレスチューナー部について	15	点検方法	25
ワイヤレスチューナーの設定	16	定格	26
300MHz帯ワイヤレスシステムについて	17	外観寸法図	27
ナローポジションについて	17	連絡先のご案内/保証書	28

安全上のご注意

必ずお守りください

- ご使用前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは、必ず保存してください。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解いただいたうえで、本文をお読みください。

絵表示の例



△記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

異常が起きたときは、ただちに使用をやめる

煙が出ている、においや音がある、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。



分解／改造はしない

火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。



異物を入れない

水や金属などの異物が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。



定期点検を実施する

専門の業者（技術者）による定期点検を実施してください。特に経年劣化には充分ご注意ください。異常があれば、ただちに使用をやめ、販売店などにご連絡ください。



表示された電源電圧以外の電圧で使用しない

火災・感電の原因となります。



専用ニカド蓄電池（WBT-2001）以外の蓄電池は使わない

内部が破損して、発火の原因となります。



防滴が必要とされる環境では、保護カバーと収納部ふたを確実に閉める

保護カバーと収納部ふたの内部は防滴ではありません。閉め方が不十分ですと水が入り、火災・感電・故障の原因となります。



この機器の上でろうそく等の炎が発生しているものを置かない

火災の原因となります。



電源コードを傷つけない

電源コードの上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線）販売店などに交換をご依頼ください。



電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。



電源プラグのほこりなどは定期的に取り除く

プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。定期的に電源プラグを抜き、乾いた布などで拭きとってください。



乾電池は、充電しない

電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。



乾電池のかわりに充電式電池は使わない

内部が破損して、発火の原因となります。



屋外で使用中に雷が鳴り出したら、使用しない

落雷の原因となります。使用を中止し、機器から離れてください。



表示部が映らない、音が出ないなどの故障状態で使用しない

事故や火災、感電の原因となります。そのような場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。



ワイヤレスマイクを危険作業の誘導などに使用しない

場所や距離や周囲の雑音条件によっては、電波が到達しなかったり瞬間的に電波が遮られたりして、放送が途切れ、作業の指示などが完全には伝達できない場合があります、事故の原因となることがあります。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

ほこり・油成分（油煙/油粒）などの多い場所で使用しない

火災・感電・故障・破損の原因となることがあります。



不安定な場所に置かない

落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。





注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

重量に耐える場所に設置をする

落下や転倒などでけがや破損の原因となります。



電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



異常に温度が高くなる場所に放置しない

窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。



長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く

火災の原因となることがあります。



お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く

感電の原因となることがあります。



電池は極性を正しく挿入する

電池を機器内に挿入する場合、極性表示に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



電池は、金属性の物と一緒に携帯、保管しない

電池は、金属性のボールペン、コイン、ヘアピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。電池がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。



電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れない

電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。



長期間使用しない、交流100Vで使用するときは電池を取り出しておく

電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。



電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。



樹脂加工部に対してベンジンやシンナーなどの溶剤を使用して清掃しない、また、タバコなどの火を近づけない

部品変形により故障して、火災などの原因となることがあります。



長時間音が歪んだ状態で使わない

スピーカが発熱し、火災の原因となることがあります。



電源プラグ部に水がかかる場所で使用しない、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災、感電の原因となります。必ずプラグを持って抜いてください。



移動するときは、コード類を傷つけない

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。



保護カバーと収納部ふたを開閉するときは、付着した水を乾いた柔らかい布などで完全に拭き取る

保護カバーと収納部ふたの内部は防滴ではありません。水が入ると、火災・感電・故障の原因となります。



保護カバーを開けたまま使用しない

操作時以外は保護カバーを開けたまま使用しないでください。転倒などでけがや破損の原因となります。



この機器に乗ったり腰掛けたりしない

特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。





注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

廃棄は専門業者に依頼する

燃やすと化学物質などで目を傷めたり、火災ややけどの原因となります。



オーディオ機器、外部スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。



1年に一回程度は、内部の掃除を販売店や工事店などにご相談ください。内部にほこりがたまった状態で、長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となります。特に湿気の多くなる梅雨時の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご依頼先にご相談ください。



設置・使用上のご注意

- 本機の上面、側面、及び後面に10cm以上の空間を確保して使用してください。
- 使用中に強い衝撃や振動を加えないでください。音切れや故障の原因となることがあります。
- 本機を雑音発生の原因になる機器※の近くには設置しないでください。
※高周波機器(乾燥機、医療機器など)、電気溶接機、ブラッシングモーター、自動車の通る道、携帯電話機、デジタル機器(コンピューター、電子楽器など)、空気清浄器など。

電源について

- 電源スイッチを「切」にただけでは、電源は遮断されません。電源を遮断するときは、つぎのようにご対応ください。
 - ①電源プラグをコンセントから抜いてください。(機器は容易に遮断の操作ができるようコンセントの近くに設置してください)
 - ②乾電池を取り外してください。
 - ③ニカド蓄電池のコネクターを本体の接続コネクターから抜いてください。
 - ④外部DC電源コードを抜いてください。

免責事項について

当社は下記の事項に関して一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

- ①お客さまの故意、過失、誤用、その他異常な条件下での使用による損害または本製品の破損など
- ②本製品に直接または間接に関連して生じた、偶発的、特殊的、または結果的損害・被害
- ③本製品のお客さまご自身による修理、分解または改造が行なわれた場合、それに起因するかどうかを問わず、発生した一切の故障または不具合により生じた損害
- ④本製品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、使用ができないことなどによる不便・損害・被害
- ⑤第三者の機器と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害

お願い

●本機を長期間お使いの場合

本機を安全に使用していただくために、販売店または工事業者による定期的な点検をおすすめします。

外観上は異常がなくても、使用条件によっては部品が著しく劣化している可能性があり故障したり、事故の原因となることがあります。下記①～④の様な状態ではないか日常的に確認してください。もしその様な状態を発見されましたら直ちに電源を切り(使用中止)、販売店または工事業者に点検や撤去をご依頼ください。

特に10年を超えて使用されている場合は、定期点検の回数を増やしていただくとともに買い換えの検討をお願いします。

- ①煙が出たり、こげ臭いにおいや異常な音がしている。
- ②電源コード・電源プラグが異常に熱い。または亀裂や傷がある。
- ③本機に触れるとビリビリと電気を感じる。
- ④電源を入れても音が出てこない、または、その他の異常・故障がある。

防水性能について

- 本機は、IEC60529 IPX4※に適合しており、雨など水の飛まつがかかる状況でもご使用いただけます。

ただし、水中や噴流では内部に水が入ることがありますので、使用しないでください。

なお、この防滴性能を発揮するのは、保護カバーおよび収納部ふたが確実に閉まっていることが条件です。

※IPX4...JIS指定のノズルを用い、約30cm～50cmの距離から約10ℓ/分の水を5分以上注水する条件で、あらゆる方向からの水の飛まつによっても本体機能を保ちます。

特 長

ARISE™テクノロジー搭載

- ・UNI-PEXの統合音響技術であるARISE™テクノロジーを搭載。これまでの音響設計技術をあらゆる角度から見直し、これまでにない音場表現を実現しました。

透明感のあるダイナミックピュアサウンド

- ・ダブルウーハーにソフトドームツイーターを組み合わせた2ウェイ3スピーカーシステムを新設計のデジタルアンプによってドライブ。定格40Wの高出力と高音質を実現しました。

防水性能IPX4

- ・雨など水の飛まつがかかる状況でも安心して使用できます。

PLLシンセサイザー方式のワイヤレスチューナー

- ・チューナーは周波数安定度の高いPLLシンセサイザー方式を採用し、4チャンネルの中から任意のチャンネルを選択でき混信のトラブルがなくご使用になれます。

4電源方式のポータブルタイプ

- ・電源はAC100V、乾電池(単2形)10本、ニカド蓄電池と外部DC電源(DC12V)を使用できます。乾電池は交換が簡単にできる電池ケースを採用しています。

使用状況に応じたトーン設定

- ・使用する状況に応じて、最適なトーン(音質)に設定することができます。設定できるトーンは4種類です。

エコー機能

- ・カラオケ用途などに役立つエコー機能を搭載。ワイヤレスマイクと有線マイクにエコーをかけられます。

シンクロドライブ™

- ・ワイヤレスアンプ2台の音声をミックスし、両方のワイヤレスアンプから放送する機能です。
 - ・シンクロドライブを使うと、有線マイク:最大4本、ワイヤレスマイク:最大4本*を同時使用することができます。
- ※WA-872シリーズと組み合わせた場合は最大6本。

最大でマイク8本を同時使用可能

- ・最大でワイヤレスマイク3本と有線マイク5本を同時使用できるので、多人数でも快適にご使用いただけます。
- ※別売のSU-350を2台、MU-600を1台増設時。

外部音源を入力し、マイク音声をミキシング

- ・入力感度切換え付の外部入力を装備。各種プレーヤー、マイクや楽器など、さまざまな外部ソースを入力可能です。
- ・ラインレベル対応のステレオ入力も備えており、各種プレーヤーも入力できます(本機内部でモノラル変換されます)。
- ・これらの外部音源とマイク音声はミキシング放送できます。

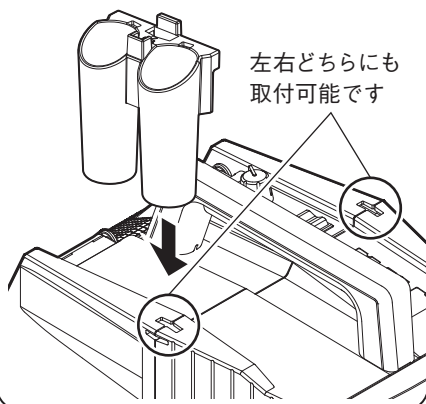
保護カバーで様々なトラブルを防止

- ・電源スイッチとオプションユニット部を保護カバーでしっかりガードした安心設計です。

各部の名称と説明（前面）

マイクホルダー取付穴

収納部ふた内にあるマイクホルダーを取付けることができます。



左右どちらにも取付可能です

電源スイッチ

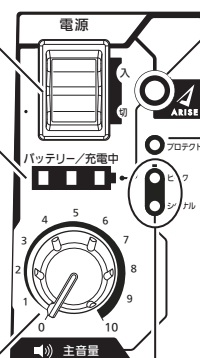
ワイヤレスアンプの電源を「入/切」するときに押します。砂埃を防ぐために、カバーが付いています。

バッテリー／充電中表示灯

乾電池または蓄電池での動作時、残量を緑色で表示します。両方を接続している場合、残量の多い方（電圧の高い方）の電池残量を表示します。蓄電池の充電を開始すると、橙色になります。消灯したらAC電源コードを抜き、充電を終了してください。

主音量調節つまみ

内蔵スピーカーから出力される音量を調節します。



ハンドル

持ち運び用のハンドルです。

シグナル／ピーク表示灯

本機への入力レベルが適正時にシグナル表示灯が点灯します（緑色）。過大時にはピーク表示灯も点灯します（橙色）。

搭載ワイヤレスユニットラベルスペース

本機に搭載されている、ワイヤレスユニットのタイプを示すラベルが貼られています。

300MHz
SINGLE

アンテナ受信表示灯

ワイヤレスチューナーの電源が入ると赤色に点灯します。電波受信時は緑色に点灯します。周波数設定が正しくおこなわれていない（17頁の受信周波数表にないグループ、チャンネルに設定している）場合、赤色で早く点滅します。再度、周波数設定をしてください。（16頁の「ワイヤレスチューナーの設定」をご覧ください。）

スピーカー

高音域用ソフトドームツイーターとダブルウーハーを搭載した2ウェイ3スピーカーシステムです。保護のためスピーカーネットが取付けられています。



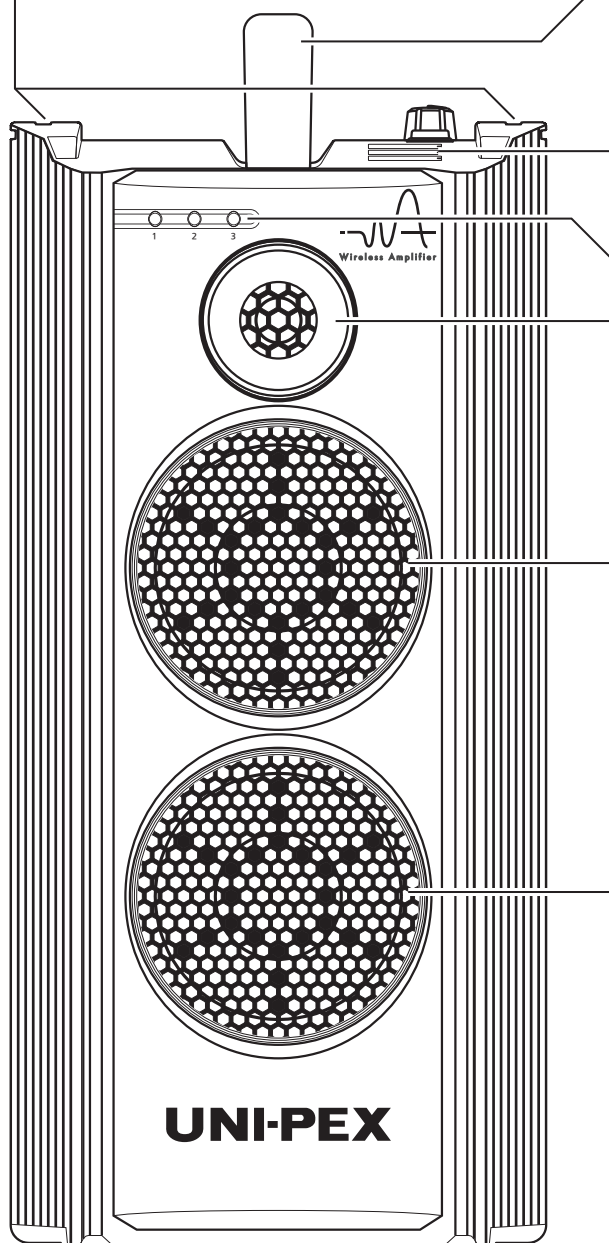
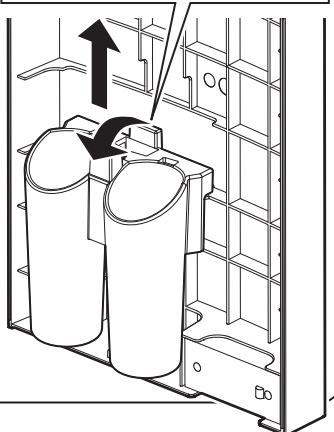
警告

スピーカーネットの隙間から内部に異物を入れないでください。

収納部ふた

内側にはマイクホルダーが付いています。マイクホルダーは取外し可能で、本機の両側にあるマイクホルダー取付穴に取付ける事もできます。ふたの開閉については、10頁の「収納部ふたについて」の説明をご覧ください。

取り外す時は、この部分を手前に引き、持ち上げてください。



各部の名称と説明（後面）

電源表示灯

本機の電源が入ると点灯します。スピーカー出力の設定が40W側の時は橙色、25W側の時は緑色に点灯します。（出力の設定については、8頁の「スピーカー出力切換スイッチ」についての説明をご覧ください。）

プロテクト表示灯

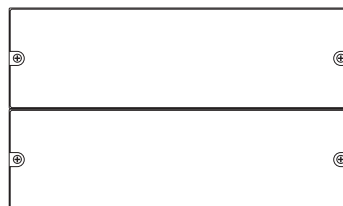
保護回路が動作すると、赤色に点灯または点滅します。
＜温度上昇、外部スピーカーの出力短絡、極度の過出力時＞
点灯し、動作が停止します。使用環境を再確認してください。
＜過出力時＞
点滅し、出力を抑制します（音量が急に小さくなります）。
音量を少し下げてください。
※スピーカー出力の設定切換時に一瞬点灯しますが、異常ではありません。

保護カバー

操作時は保護カバー下部を固定する位置まで持ち上げてください。保護カバー内部に埃や水滴の浸入を防ぐため、操作中以外は保護カバーを確実に閉めてご使用ください。（9頁の「保護カバーについて」の説明をご覧ください。）

オプションユニット取付部（保護カバー内部）

オプションユニットを2台まで格納できます。



対応するユニットを増設することができます。増設方法はユニットの取扱説明書をご覧ください。
※SD/USBレコーダー
SDU-201は、必ず下段に取付けてください。

アンテナ受信表示灯

ワイヤレスチューナーの電源が入ると赤色に点灯します。
電波受信時は緑色に点灯します。
周波数設定が正しくおこなわれていない（17頁の受信周波数表にないグループ、チャンネルに設定している）場合、赤色で早く点滅します。再度、周波数設定をしてください。（16頁の「ワイヤレスチューナーの設定」をご覧ください。）

ワイヤレスマイク1/2/3音量調節つまみ

ワイヤレスマイクの音量を調節します。スイッチ付ですので、ワイヤレスチューナーの電源を個別に入／切できます。
2と3の音量調節つまみは、別売のワイヤレスチューナーユニットSU-350増設時、増設したワイヤレスマイクの音量を調節します。

マイク音量調節つまみ

収納部内のマイク入力ジャックに接続されたマイクロホンの音量を調節します。

外部入力1音量調節つまみ

収納部内の外部入力1ジャックに接続された機器の音量を調節します。

ワイヤレス設定ラベルスペース

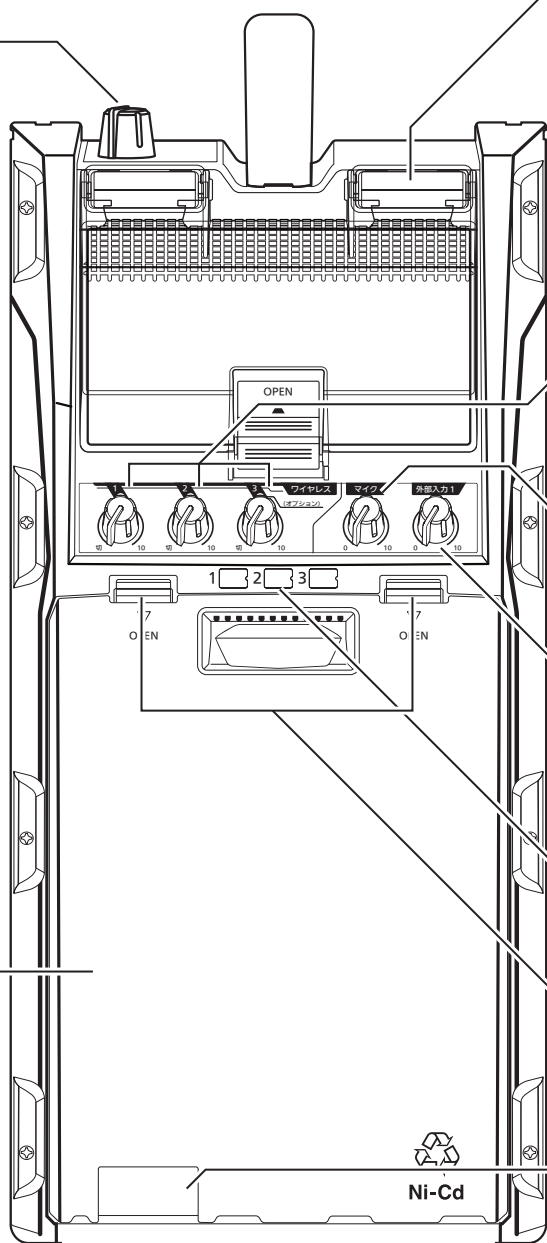
ワイヤレス設定ラベルを貼ります。
本機のワイヤレスチューナー部は収納部内にありますので、外部よりグループ・チャンネルを確認できるようにしてください。

ふたストッパー

矢印（▽）の方向に押さえますと、収納ふたが開きます。

コード通し穴

AC電源コード、各種接続コード接続時は、この通し穴のスポンジ下から引き出してください（10頁の「収納部ふたについて」をご覧ください）。スポンジは取り外さないでください。



各部の名称と説明 (収納部)

外部入力1ジャック

感度切換可能な外部入力ジャックです。

入力感度切換スイッチ

外部入力1の入力感度を切換えます。

- ・ -56dBV 600Ω 不平衡
- ・ -42dBV 600Ω 不平衡
- ・ -22dBV 10kΩ 不平衡
- ・ -2dBV 10kΩ 不平衡

外部入力2ジャック

(-12dBV 10kΩ 不平衡)

CDプレーヤーなどのライン入力専用の外部入力ジャックです。モノラル機器の場合は、片方のジャックに接続してください。

※ステレオ入力した場合でも出力はモノラルになります。

外部入力2音量調節つまみ

外部入力2の音量を調節します。

ライン出力ジャック

(0dBV 1kΩ 不平衡)

録音機器などを接続します。

シンクロドライブ接続端子

シンクロドライブでの使用時、もう1台のワイヤレスアンプと適用コードで接続してください。(21頁の「シンクロドライブについて」をご覧ください。)

AC電源コード

収納部ふたのコード通し穴からコードを引き出し、AC100Vコンセントに接続してください。

マイク入力ジャック

(-56dBV 600Ω 不平衡)

有線マイクのプラグを接続します。

蓄電池収納部

12頁の「ニカド蓄電池 WBT-2001 (別売) でご使用の場合」をご覧ください。

ワイヤレスチューナー部

15頁の「ワイヤレスチューナー部について (各部の名称と説明)」をご覧ください。

トーン切換スイッチ

本機のトーン (音質) を4種類から選択できます。(20頁の「トーン切換について」をご覧ください。)

エコー音量調節つまみ

マイク入力、外部入力1 (入力感度を「マイク」に設定時)、ワイヤレスマイクのエコー音量を調節します。

蓄電池接続コネクタ

ニカド蓄電池WBT-2001 (別売) を接続します。(12頁の「ニカド蓄電池WBT-2001 (別売) でご使用の場合」をご覧ください。)

電池ケース

単2形乾電池(R14P/LR14)10本を極性表示に従って入れてください。(11頁の「乾電池でご使用の場合」をご覧ください。)

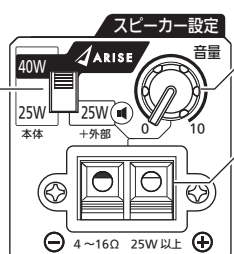
外部DC電源コネクタ

カーバッテリー(DC12V、⊖アース)から電源をとる場合は、DC電源コードLD-WA7 (別売) で、車内のアクセサリソケットまたはシガレットライターソケットに接続してください。(13頁の「外部DC電源でご使用の場合」をご覧ください。)

スピーカー出力切換スイッチ

大出力が必要な時は40W側、大出力が必要無い場合や外部スピーカー使用時は、25W側に設定してください。

設定	定格出力	外部スピーカー
40W側	(AC時) 40W / (DC時) 22W	使用不可
25W側	(AC時) 25W / (DC時) 20W	使用可能

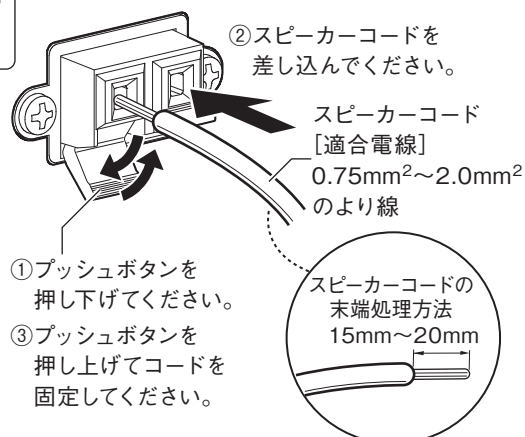


外部スピーカー音量調節つまみ

外部スピーカーの音量を調節します。

外部スピーカー接続端子

外部スピーカーを接続します。(下図参照)



ご注意

- 定格入力25W以上で、インピーダンスが4~16Ωのスピーカーを接続してください。保護回路を内蔵したスピーカーを推奨します。スピーカーコードは0.75mm²のより線使用時に10m以内、2.0mm²のより線使用時に20m以内の長さを目安に使用してください。
- 接続するスピーカーのインピーダンスによって音量が変わります。外部スピーカー音量調節つまみで調節してください。

保護カバーについて

⚠ 警告

防滴が必要とされる環境では、保護カバーを確実に閉めてください。

- 保護カバーは、保護カバー内部への水滴や埃の浸入を防ぎます。また使用中の誤操作を防ぐこともできます。使用中（操作中を除く）および保管時は、保護カバーを確実に閉めてください。
- 保護カバーを開けるときは、ゆっくりと最上部の止まる位置まで開いてください。（下図参照）
- 保護カバーを閉めるときは、「カチッ」と音がする位置まで、しっかりと押しこんで確実に閉めてください。（下図参照）押し込みが不十分だと、防滴性能を発揮できません。また、保護カバーが急に開くことがあります。
- 保護カバーは、万一の事故や破損防止のために、強い力がかかった際に外れる構造になっています。もし保護カバーが外れた時は、2ヶ所の取付部を差し込み、元通りに取付けてください。（下図参照）

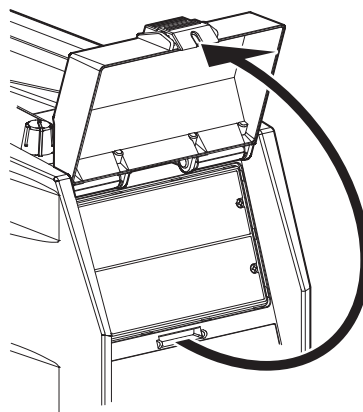
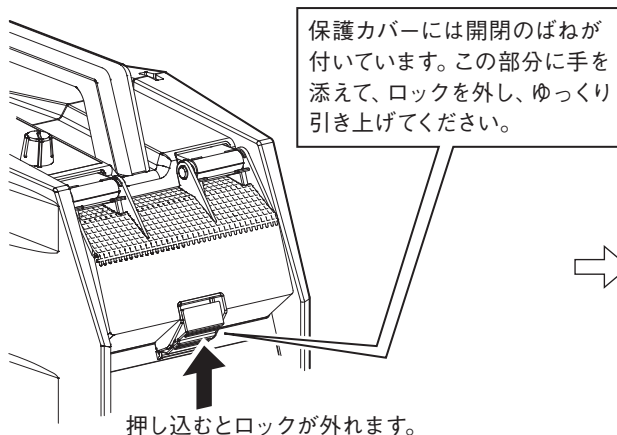
⚠ 注意

保護カバーを開閉するときは、付着した水や埃を乾いた柔らかい布などで完全に拭き取ってください。

開け方

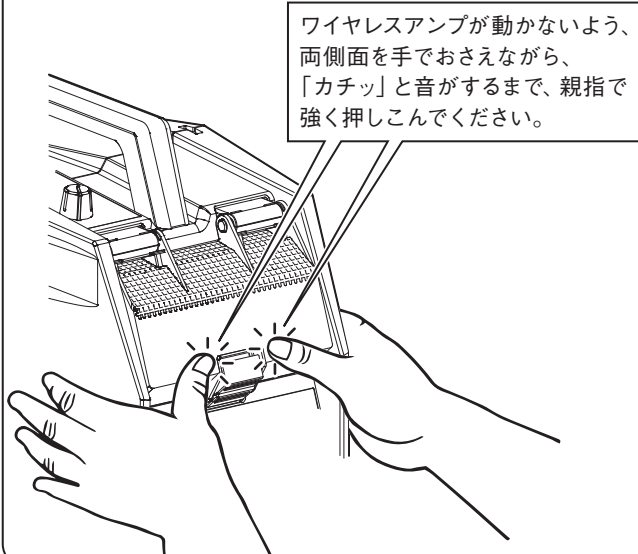
①保護カバーのロックを外し、ゆっくり開けてください。

②保護カバーが止まる位置まで開けてください。



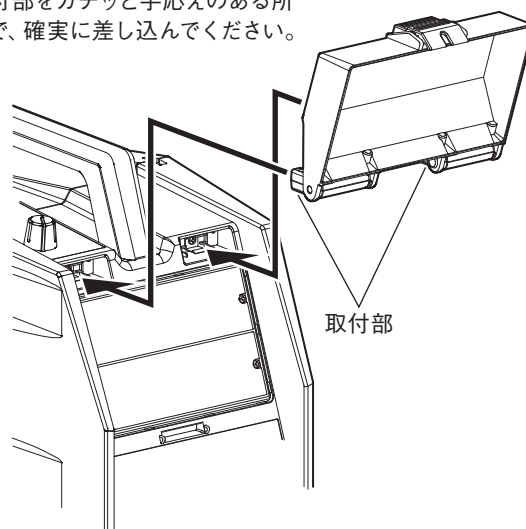
閉め方

- 保護カバーを閉める時は、「カチッ」と音がする位置まで、しっかりと押しこんで確実に閉めてください。



保護カバーの取付け方

- 保護カバーが外れてしまった時は、取付部をカチッと手応えのある所まで、確実に差し込んでください。



収納部ふたについて

⚠ 警告

防滴が必要とされる環境では、収納部ふたを確実に閉めてください。

- 接続、取付けや設定などの作業を行う際は、収納部ふたを取外してください。（下図参照）
- 作業が済みましたら、収納部ふたを確実に閉めてください。（下図参照）

⚠ 注意

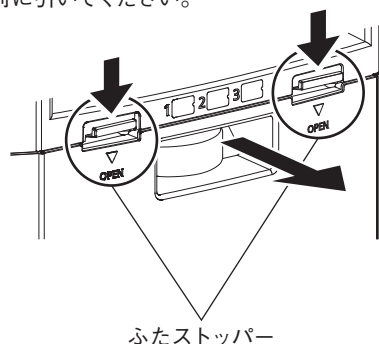
収納部ふたを開閉するときは、付着した水や埃を乾いた柔らかい布などで完全に拭き取ってください。

⚠ 注意

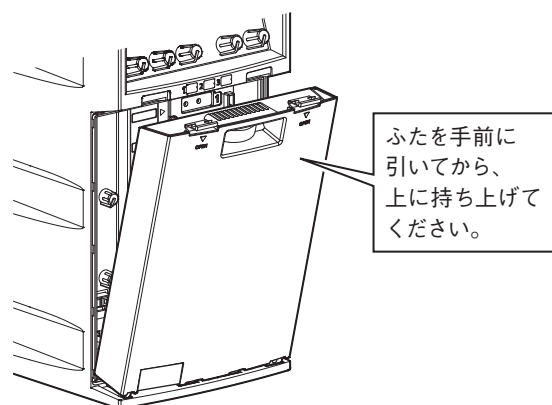
収納部ふたを閉める際、本機との間にコード類を挟まないようにご注意ください。挟んだ状態で閉めると、収納部ふたやコード類が変形・破損することがあります。

開け方

- ① ふたストッパーを下向きに押さえ、手前に引いてください。



- ② 収納部ふたを取外してください。

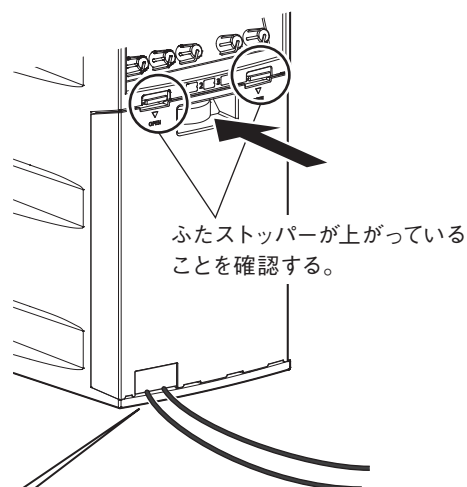


閉め方

- ① 収納部ふたを取付けてください。



- ② 両方のふたストッパーが上がる位置まで、しっかりと押しこんで、確実に閉めてください。片方だけしか上がっていない場合、防滴性能を発揮できません。



AC電源コード、各種接続コードは、コード通し穴のスポンジ下にまとめ、引き出してください。

使用電源について

●本機は、4種類の電源を使用することができます。使用状況に応じて最適な電源をお選びください。

- ・AC100V
- ・外部DC電源 DC12V
(外部DC電源コード LD-WA7 (別売) が必要。)
- ・単2形乾電池(R14P/LR14)10本 (別売)
- ・ニカド蓄電池 WBT-2001 (別売)

ご注意

- AC電源コードと外部DC電源を同時に接続しないでください。

●複数のDC電源を同時に接続している場合、どのDC電源から供給されるかは、次の優先順位に従います。

- ①外部DC電源 DC12V
- ②単2形乾電池(R14P/LR14)10本またはニカド蓄電池 WBT-2001の電圧の高い方(残量の多い方)

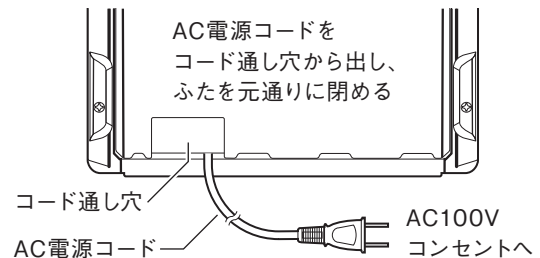
●作業の際、収納部ふたを開閉する必要があります。開閉については、10頁の「収納部ふたについて」をご覧ください。

■AC電源でご使用の場合

⚠ 注意

電源プラグ部に水がかかる場所で使用しない、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。

- ①電源スイッチを切り、収納部ふたを開けてください。
- ②AC電源コードを取り出し、ACコンセントに差し込んでください。(右図参照)
- ③AC電源コードをコード通し穴のスポンジ下から出してください。(右図参照)
- ④元通りにふたを閉めてください。

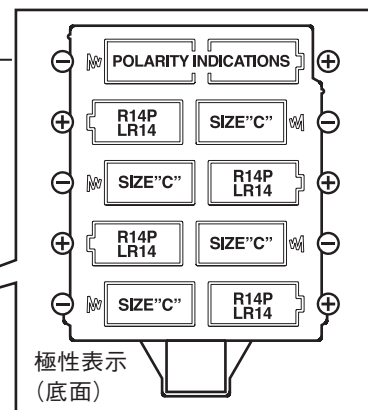
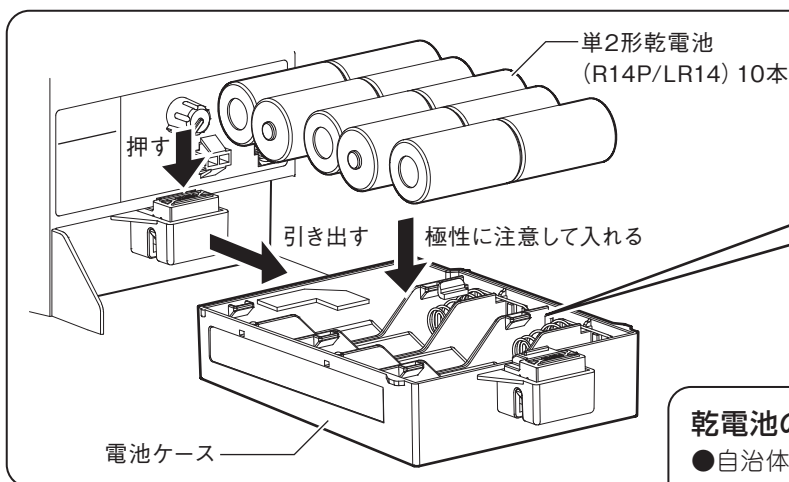


■乾電池でご使用の場合 (できるだけアルカリ乾電池をご使用ください)

- ①電源スイッチを切り、収納部ふたを開けてください。
- ②電池ケースを引き出し、極性表示に従って単2形乾電池 (R14P/LR14)10本を入れてください。(下図参照)
- ③電池ケースを乾電池収納部に、カチッと音がするまで挿入してください。
- ④元通りに収納部ふたを閉めてください。

⚠ 警告

作業時は、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。



乾電池の廃棄について

- 自治体ごとに定められた廃棄方法に従ってください。

ご注意

- 本機に乾電池が入っている時は、乾電池の飛び出しなどを防ぐため、必ずふたを閉め、ロックしてください。
- 乾電池は必ず同じ種類のものを使用し、交換するときは、必ず全部新品に交換してください。
- 乾電池の極性 (+・-) を間違えないようご注意ください。
- 長時間使用しない場合は乾電池を取り出しておいてください。乾電池をそのまま入れておきますと、乾電池の液もれて本機が使用不能になる恐れがあります。また、万一、もれた液が身体に付いたときは、水でよく洗い流してください。

使用電源について

■ニカド蓄電池 WBT-2001 (別売) でご使用の場合



警告

作業時は、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。

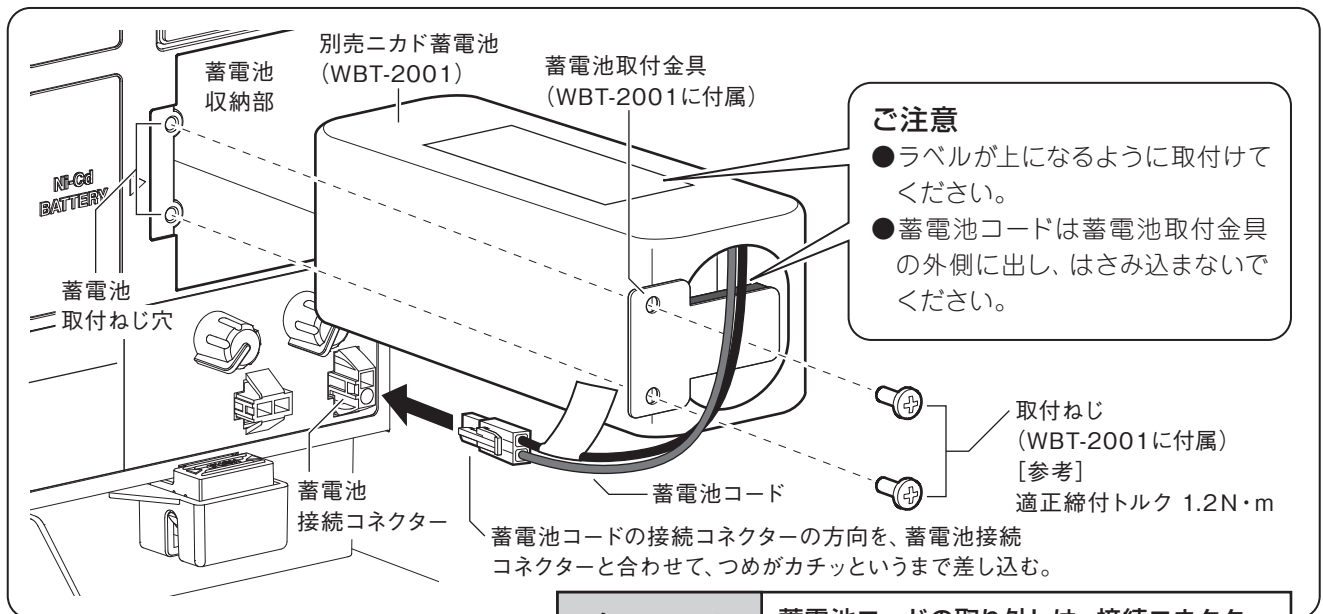


このマークはニカド電池のリサイクルマークです。
ご使用済のニカド蓄電池は貴重な資源です。
再利用しますので廃棄しないで、ニカド電池リサイクル協力店にご持参ください。

■取付のしかた

- ①電源スイッチを切り、収納部ふたを開けてください。
- ②ニカド蓄電池を、収納部の右中央にある蓄電池収納部に固定してください。
固定の際は、蓄電池取付金具と取付ねじを使用してください。(下図参照)
- ③蓄電池コードの接続コネクタを、本機の蓄電池接続コネクタに接続してください。
コネクタは方向を合わせ、抜け止めのつめが完全にロックするまで差し込んでください。
- ④元通りに収納部ふたを閉めてください。

●ニカド蓄電池(WBT-2001)は初期状態では充電されていません。取付完了後、充電をしてからご使用ください。



注意

蓄電池コードの取り外しは、接続コネクタのロックを指で外してから行ってください。

■充電のしかた

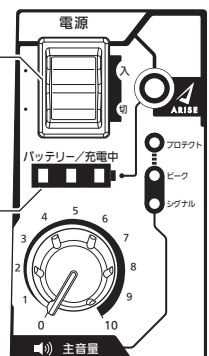
ご注意

- 充電中は、電源スイッチを入れないでください。本機が動作状態になり、充電ができません。
- ニカド蓄電池は使いきらないで次の充電を繰り返しますと、蓄電池の容量低下の原因になります。
※WBT-2001の充放電回数は、約500回です。
- 蓄電池は消耗品です。正しい充電をおこなっても、使用時間が著しく低下したときは寿命ですので、新しい蓄電池と交換してください。
- 蓄電池は充電後、使用せずに保存しても自然に放電します。ご使用の直前に充電することをお薦めします。

- ①電源スイッチを切り、収納部ふたを開けてください。
- ②AC電源コードを取り出し、ACコンセントに差し込んでください。充電が開始され、バッテリー／充電中表示灯が橙色に点灯します。(右図参照)
※外部のDC電源からは充電できません。
- ③約10時間(常温時)でバッテリー／充電中表示灯が消灯します。AC電源コードを、コンセントから抜いてください。
- ④AC電源コードを収納し、元通りに収納部ふたを閉めてください。

充電中は、
電源スイッチを
「切」にする

充電中は、バッテリー
／充電中表示灯が全て
橙色に点灯する



■外部DC電源でご使用の場合



警告

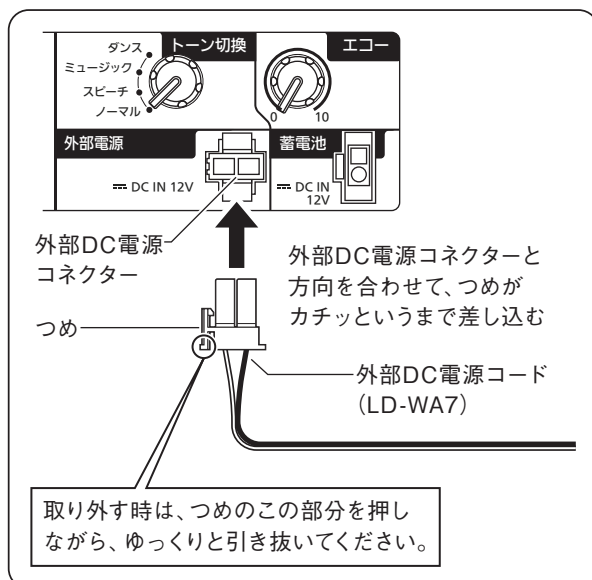
外部DC電源でご使用の際は、必ず本機のAC電源コードをコンセントから抜いてください。

■取付のしかた

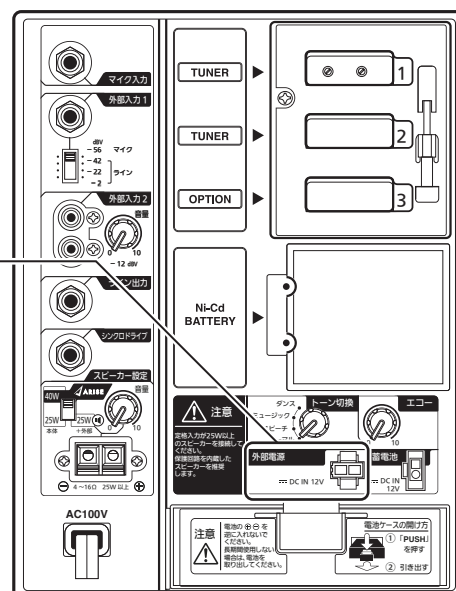
ご注意

- カーバッテリーが24Vのものを使用している車には接続しないでください。故障の原因になります。
- 外部DC電源コード LD-WA7のヒューズ容量は6Aです。車側のヒューズ容量にご注意ください。
- ヒューズが溶断した際は、弊社営業所または、お客様相談窓口にご連絡ください。
- 使用しない時は、外部DC電源コードを車内のアクセサリ/シガーライターソケットから抜いてください。

- ①電源スイッチを切り、収納部ふたを開けてください。
- ②外部DC電源コネクタに、外部DC電源コード LD-WA7（別売）を接続してください。（下図参照）
- ③元通りに収納部ふたを閉めてください。

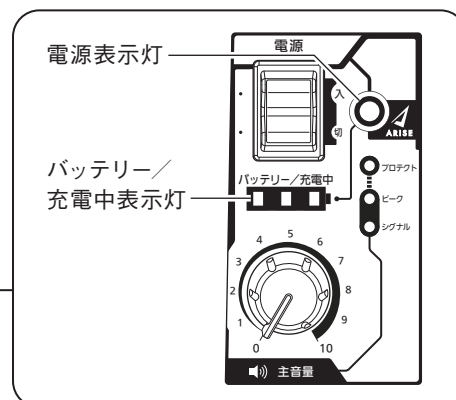


収納部



電池残量表示について

- 乾電池または蓄電池をご使用の場合、電池の残量を本機のバッテリー／充電中表示灯で確認することができます。
- 乾電池と蓄電池の両方を接続している場合、電圧の高い方（残量の多い方）の電池残量を表示します。
- 使用中は電池の残量に注意し、早めに乾電池の交換、または蓄電池の充電をしてください。（下図参照）



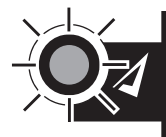
乾電池でご使用の場合、点灯LEDが1つになり点滅を始めたら、乾電池を交換してください。この時点では、全ての機能が使用可能です。

さらに電池が消耗すると、点滅が高速状態になり、一部の機能が使用できなくなります。

さらに電池が消耗すると、電源表示灯も高速で点滅を始めます。全ての機能が使用できなくなります。



制限される機能
・スピーカー出力設定「40W側」での使用※
・オプションユニット
・外部スピーカー



蓄電池でご使用の場合、点灯LEDが2つになったら、すぐに充電をしてください。放電特性が異なるため、蓄電池は乾電池より交換（または充電）の目安が早くなります。

※「40W側」で使用していた場合、内部動作が自動的に「25W側」に切り変わり、電源表示灯が緑色になります。

電池寿命の目安

スピーカー出力設定	アルカリ乾電池	ニカド蓄電池
40W側	約7時間	約5.5時間
25W側	約10時間	約6.5時間

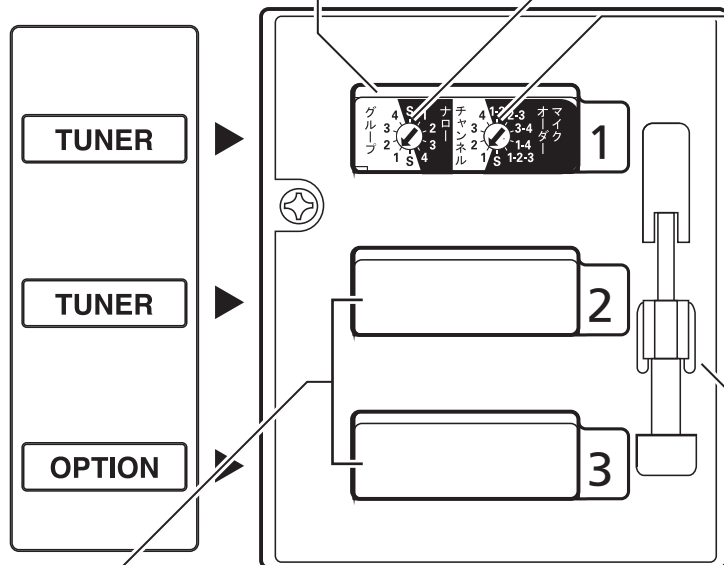
当社の試験条件で連続使用した場合の値です。ご使用の条件によっては、変動することがあります。

- 本機のスピーカー出力設定によって、電池寿命は変わります。
 - 電池残量が少なくなると、出力により音が途切れることがあります。乾電池の場合は早めの交換を、ニカド蓄電池の場合は直ちに充電してください。
- ※電池でご使用の場合、定格出力は「40W側」：22W、「25W側」：20Wとなります。

ワイヤレスチューナー部について (各部の名称と説明)

ワイヤレスチューナー部

収納部内にワイヤレスチューナー1台が内蔵されています。



グループ設定スイッチ

使用するワイヤレスマイクのグループ番号と同じ数字に設定してください。

チャンネル設定スイッチ

使用するワイヤレスマイクのチャンネル番号と同じ数字に設定してください。

出荷時は、グループ/チャンネル番号「C11」に設定されています。

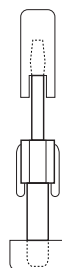
グループ/チャンネル番号の変更をされる場合は、16頁の「ワイヤレスチューナーの設定」をご覧ください。

ワイヤレスチューナーユニット取付部

別売のワイヤレスチューナーユニットSU-350を2台まで増設可能です。増設する場合は、19頁の「別売ワイヤレスチューナーユニットの取付方法」をご覧ください。

ワイヤレスチューナー設定用ドライバー

16頁の「ワイヤレスチューナーの設定」をご覧ください。



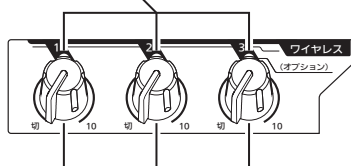
ドライバーを引き上げて取りはずす

アンテナ受信表示灯

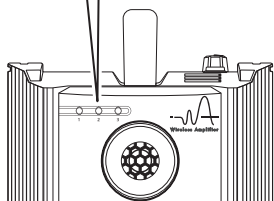
ワイヤレスチューナーの電源が入ると赤色に点灯します。

電波受信時は緑色に点灯します。

周波数設定が正しくおこなわれていない(17頁の受信周波数表にないグループ、チャンネルに設定している)場合、赤色で早く点滅します。再度、周波数設定をしてください。(16頁の「ワイヤレスチューナーの設定」をご覧ください。)



アンテナ受信表示灯は前面にもあります。



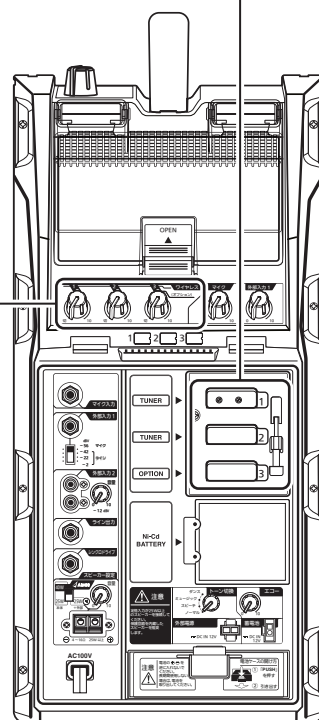
ワイヤレスマイク1/2/3音量調節つまみ

ワイヤレスマイクの音量を調節します。

スイッチ付ですので、ワイヤレスチューナーの電源を個別に入/切できます。ワイヤレスマイクを使用する場合は、右にまわし電源スイッチを入れ、音量を調節してください。

2と3の音量調節つまみは、別売のワイヤレスチューナーユニットSU-350増設時、増設したワイヤレスマイクの音量を調節します。

ご使用にならないワイヤレスマイクの音量調節つまみは、音量を最小にするか「切」にしてください。



ワイヤレスチューナーの設定

- 本機は出荷時に、ワイヤレスチューナー部のグループ/チャンネル番号を「C11」に設定しています。周波数設定を切り換える場合は、付属の設定用ドライバーを使用し、次の要領でおこなってください。

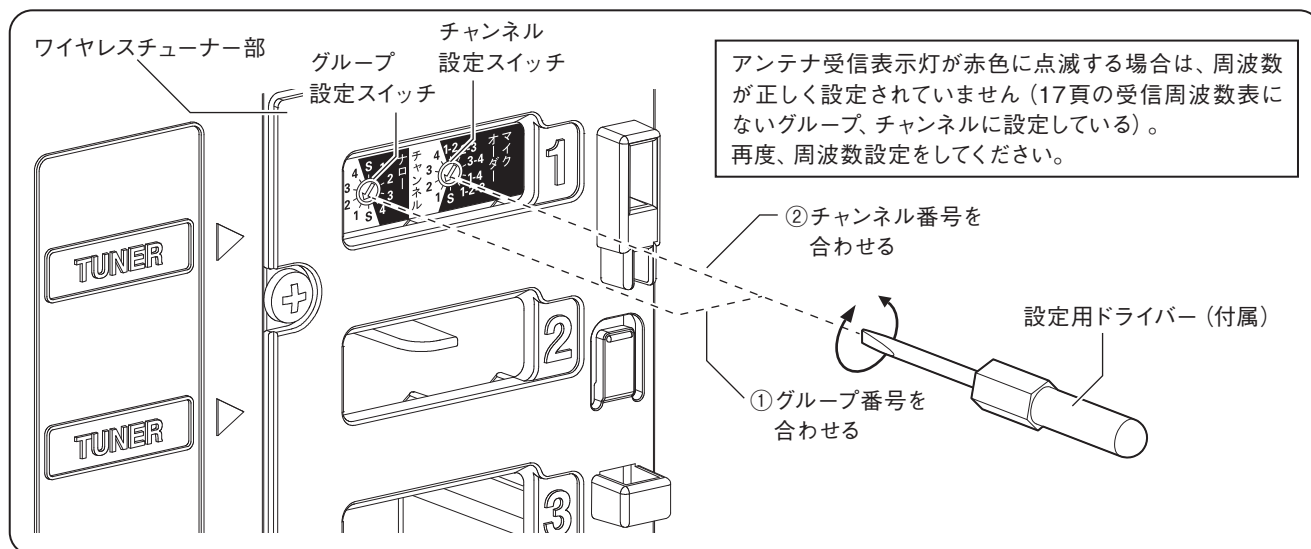
■周波数設定のしかた

1.グループ番号を設定する

- ・グループ設定スイッチの矢印を設定したいグループ番号に合わせます。(下図参照)

2.チャンネル番号を設定する

- ・チャンネル設定スイッチの矢印を設定したいチャンネル番号に合わせます。(下図参照)

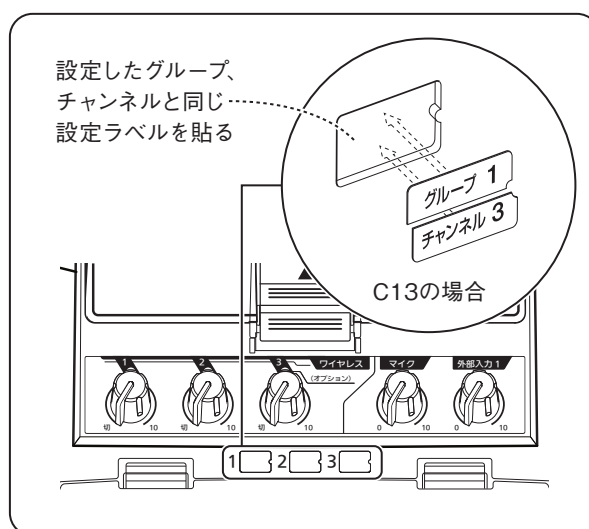


3.収納部ふたを締め、ワイヤレス設定ラベルを貼る

- ・元通りに収納部ふたを取り付けてください。
- ・設定したグループ、チャンネルと同じワイヤレス設定ラベル (付属) を、ワイヤレスマイク音量調節つまみ下部のワイヤレス設定ラベルスペースに貼ってください。(右図参照)

お願い

- 本機のワイヤレスチューナー部は収納部内にあります。ワイヤレス設定ラベルを貼り、外部から周波数設定を確認できるようにしてください。



ご注意

- ワイヤレスチューナーとワイヤレスマイクは、同じ周波数(グループ及びチャンネル)に設定してください。
- 同時に使用するワイヤレスマイクは、必ず同じグループの内の異なるチャンネルに設定してください。(17頁の受信周波数表を参照)
- 1ヶ所で同時使用できるチャンネル数は17頁の「グループ/チャンネル番号について」を参照してください。
- ワイヤレスアンプとワイヤレスマイクの距離は、15m以内で使用してください。なお環境条件によっては15mよりも短くなります。
- 同じ周波数の妨害電波、高周波を使う機器が近くにないことを確認してください。やむをえず雑音源の近くでご使用になる場合は、ワイヤレスマイクと本機の距離は約2m~10mの距離でご使用ください。なお、2m以内に近づくと、使用していないチャンネルへの飛び込みや混信などが発生することがあります。
- ワイヤレスマイクを2本以上ご使用の場合、ワイヤレスマイク同士は50cm以上離してください。他の受信機へ混信することがあります。

300MHz帯ワイヤレスシステムについて

■グループ／チャンネル番号について（下記文中のチャンネル数は本機を複数台使用の場合を含みます。）

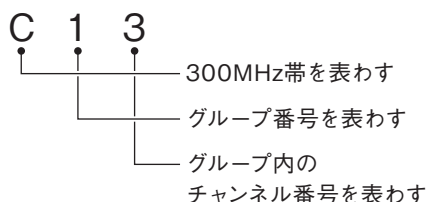
- 同一場所で、複数のマイクを同時に使用する場合は1つのグループに統一します。
（グループ1～4の中から1つのグループを選びます。）
- ・グループ1～3の中から1つのグループを選んでシステムを組めば、最大4波まで使用できます。
- ・グループ4は1波使用できます。
- 周波数一覧表にないグループ／チャンネル番号に設定すると、受信表示灯が点滅し受信できません。
必ず周波数一覧表を見て設定してください。

受信周波数表

	周波数 (MHz)	グループ／チャンネル番号			
		グループ1	グループ2	グループ3	グループ4
1	322.025			C31	
2	322.050	C11			
3	322.075		C21		
4	322.100	C12			
5	322.125		C22		
6	322.150			C32	
7	322.250	C13			
8	322.275		C23		
9	322.300				C41
10	322.325			C33	
11	322.350	C14			
12	322.375		C24		
13	322.400			C34	

■チャンネル呼称について

（例）



■グループ／チャンネル番号の設定例

使用するワイヤレスマイクのグループ／チャンネル番号が「C13」の場合



グループ設定スイッチの矢印を「1」の位置にまわす

チャンネル設定スイッチの矢印を「3」の位置にまわす

ナローポジションについて

- 本機を使用中に、近隣で使用するワイヤレスマイクが混信するとき、または混信の恐れがあるときは、グループの設定を「ナローポジション」にしてください。
受信感度を抑え、混信を防ぐことができます。



通常のポジション

ナローポジション
（受信範囲が狭い）

マイクオーダーについて

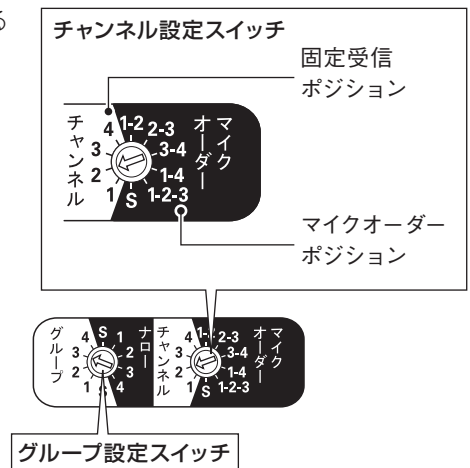
- 本機は、1本のマイクに対して専用のチャンネルを固定して受信する「固定受信ポジション」と、グループ内の複数チャンネルを選択して受信する「マイクオーダーポジション」の設定が可能です。

・固定受信ポジション

1本のマイクに対して、専用のチャンネルを固定して受信します。

・マイクオーダーポジション

グループ内の複数(2～4)チャンネルを選択して受信します。



- 受信可能なチャンネルの組合わせは、左記の「マイクオーダーのチャンネル組合せ表」をご覧ください。
またグループの設定は「1、2、3」のいずれかに設定してください。「4、S」には設定しないでください。

◆マイクオーダーのチャンネル組合せ表

グループ設定スイッチ チャンネル設定スイッチ	1	2	3
マイク オーダー ポジ ション	1-2 C11 C12 2-3 C12 C13 3-4 C13 C14 1-4 C11 C14 1-2-3 C11 C12 C13 S C11 C12 C13 C14	C21 C22 C22 C23 C23 C24 C21 C24 C21 C22 C23 C21 C22 C23 C24	C31 C32 C32 C33 C33 C34 C31 C34 C31 C32 C33 C31 C32 C33 C34

ご注意

- 別売ワイヤレスチューナーユニット組込時に、マイクオーダーポジションでチャンネルを設定する場合、両チューナーのチャンネル番号が互いに重複しないようにしてください。

・チャンネル番号が互いに重複する組合わせ例：

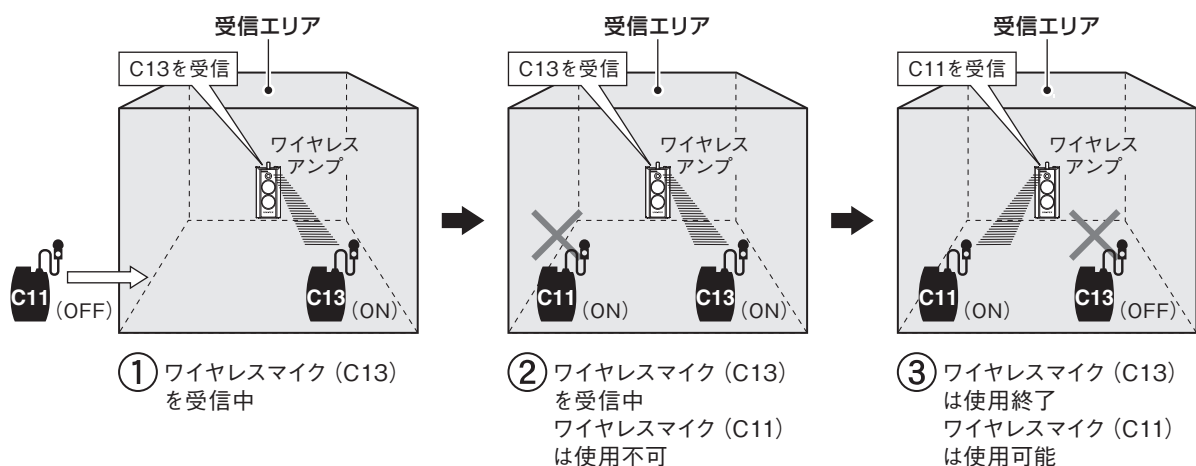
「1/1-2」「2/2-3」「1-2/2-3」「2-3/3-4」など

・正しいチャンネル番号組合わせ例：

「1/2-3」「2/1-4」「3/1-2」「1-2/3-4」「2-3/1-4」など

マイクオーダー運用例

- グループスイッチの設定・・・1の場合
- チャンネルスイッチの設定・・・S



別売ワイヤレスチューナーユニットの取付方法

- 本機は、ワイヤレスチューナーユニットSU-350を2台まで追加することができます。(標準装備の1台と合わせて、最大3台まで使用可能)。取付は、販売店または最寄りの弊社営業所にご相談ください。
 - 作業の際、収納部のふたを開閉する必要があります。
- ※開閉のしかたについては、10頁の「収納部ふたについて」をご覧ください。



警告

ご使用中は、感電の恐れがありますので、取付作業をおこなわないでください。
作業時は、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。

■取付けのしかた

1. 収納部ふたを開ける

- ・ 収納部のふたを開けてください。

2. チューナーカバーをはずす

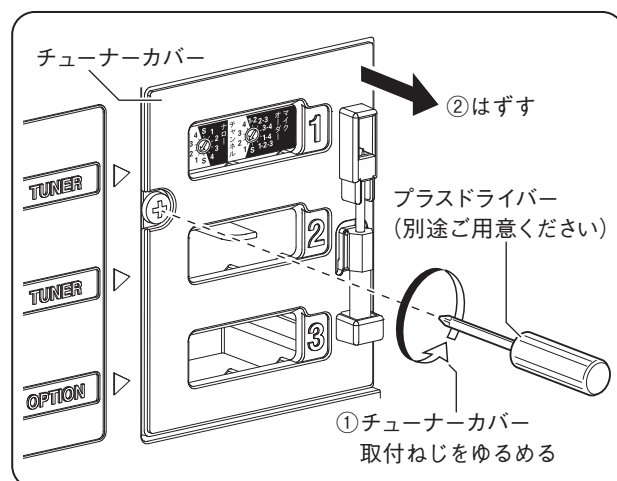
- ・ チューナーカバーの取付ねじをゆるめ、矢印の方向に取りはずしてください。(右図参照)

3. ワイヤレスチューナーユニットを組み込む

- ・ ワイヤレスチューナーユニットをワイヤレスチューナーユニット取付部に挿入してください。(下図参照)

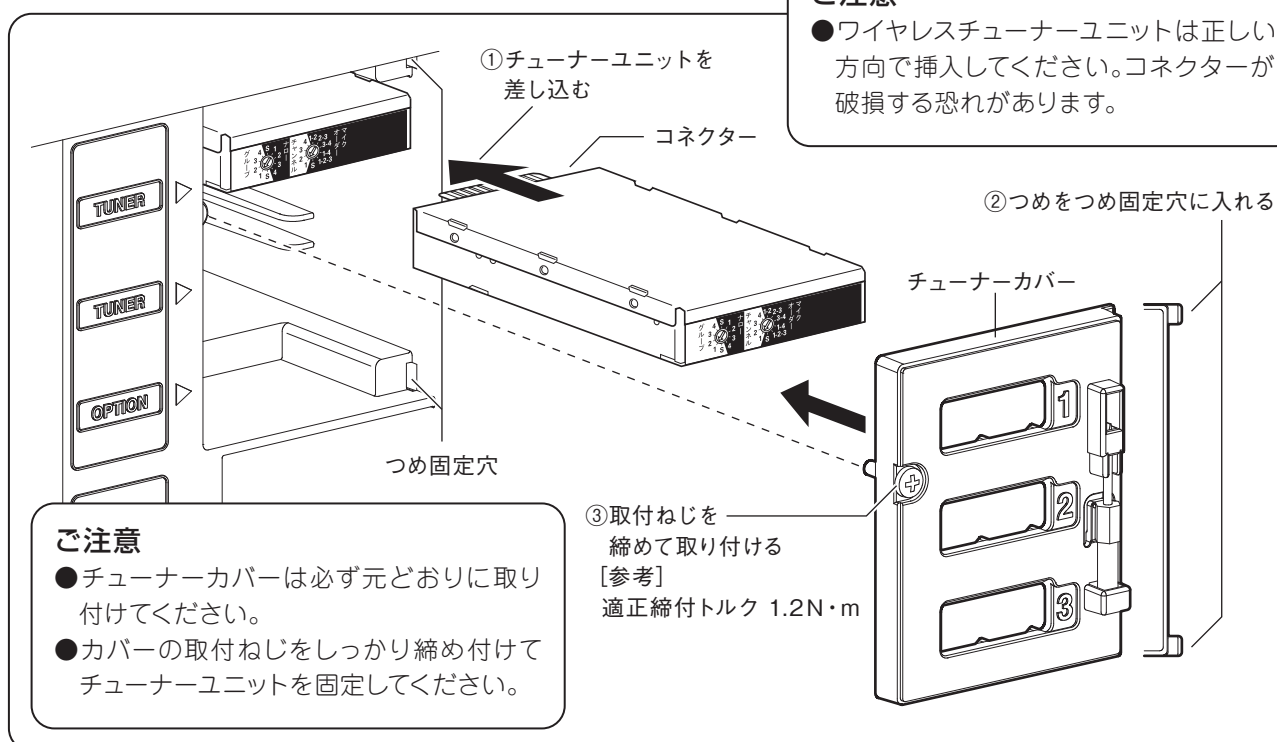
4. チューナーカバーを元通りに取り付ける

- ・ チューナーカバーを元通りに取り付け、取付ねじを締め付けて固定してください。(下図参照)



ご注意

- ワイヤレスチューナーユニットは正しい方向で挿入してください。コネクタが破損する恐れがあります。



ご注意

- チューナーカバーは必ず元どおりに取り付けてください。
- カバーの取付ねじをしっかりと締め付けてチューナーユニットを固定してください。

5. 周波数を設定する

- ・ 出荷時は、グループ/チャンネル番号を「C11」に設定しています。周波数設定を切り換える場合は、16頁の「ワイヤレスチューナーの設定」、またはワイヤレスチューナーユニットの取扱説明書をご覧ください。

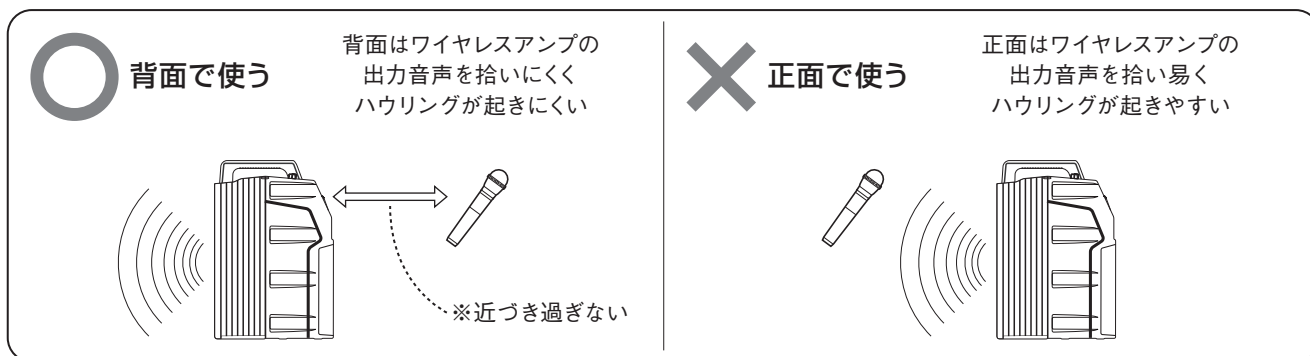
6. 収納部ふたを閉め、チャンネル表示ラベルを貼る

- ・ 元通りにふたを閉めてください。
- ・ 設定したグループ、チャンネルと同じ表示ラベル(チューナーユニットに付属)を本機後面のワイヤレスマイク音量調節つまみの下部に貼ってください。16頁の「ワイヤレスチューナーの設定」をご覧ください。

ハウリングとデッドポイントについて

■ハウリングについて

- ワイヤレスアンプの出力音声をマイクが拾うと、音声のループが発生し、「キーン」というハウリングが起きます。
- マイクをワイヤレスアンプの真正面近くで使用したり、音量を上げ過ぎたりすると、ハウリングが起きやすくなります。(下図参照)
- ハウリングが起きた場合は、ただちに音量を下げるか、マイクの位置をスピーカーの正面からそらすと止まります。



■デッドポイントについて

- ワイヤレスマイクを移動しながら使用していると、突然音が出なくなる位置があります。この位置をデッドポイントと言います。
- これはワイヤレスマイク、本機の内蔵アンテナ、壁、障害物などの位置関係により生ずるもので、故障ではありません。本機の位置、あるいはワイヤレスマイクの位置を変えると、音が出るようになります。

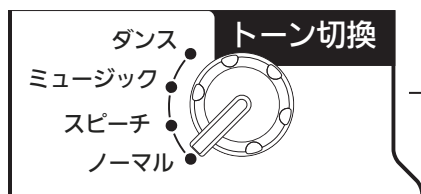
トーン切換について

- 使用する状況に応じて、最適なトーン（音質）に切換えて、ご使用いただけます。設定できるトーンは4種類です。

設定トーン	設定内容
ダンス	高音と低音が強調され、ダンスに最適な明瞭かつ迫力のある再生音になります。
ミュージック	高音が強調され、明瞭で聞き取りやすい再生音になります。
スピーチ	声が強調され、屋外などでも遠くまで音声が届きます。
ノーマル	音質の調整をしません。通常はこの位置でご使用ください。

■トーン切換のしかた

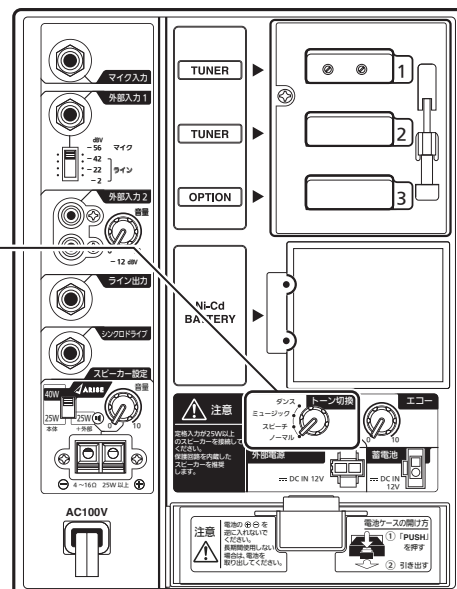
- トーン切換のスイッチを回して、設定したいトーンに合わせてください。



メモ

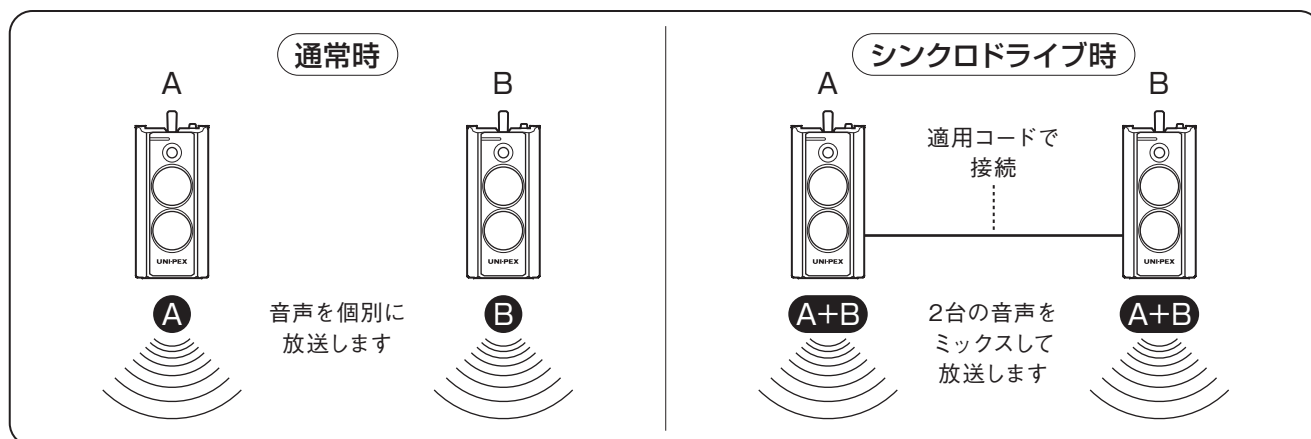
- SD/USBレコーダー SDU-201への録音には、トーン切換の効果はありません。

収納部



シンクロドライブ™について

- ワイヤレスアンプ（WA-872、371、372シリーズ）2台の音声をミックスし、両方のアンプから放送する機能です。異なる品番での接続も可能です（例えばWA-371と872）。
- 2台のシンクロドライブ接続端子を適用コードで接続することで、シンクロドライブモードで動作します。
- シンクロドライブ時は、有線マイク：最大4本、ワイヤレスマイク：WA-872シリーズと組み合わせた場合、最大6本 / 371、372シリーズと組み合わせた場合、最大4本を同時に使用することができます（ワイヤレスチューナー増設時）。



■ワイヤレスチューナーの設定

- 同時に使用するワイヤレスマイクは、必ず同じグループの内の異なるチャンネルに設定してください。（17頁の受信周波数表を参照）
- WA-872シリーズと接続して使用する場合、800MHz帯ワイヤレスマイクの設定は、WA-872シリーズの取扱説明書「800MHz帯ワイヤレスシステムについて」の頁を参照してください。

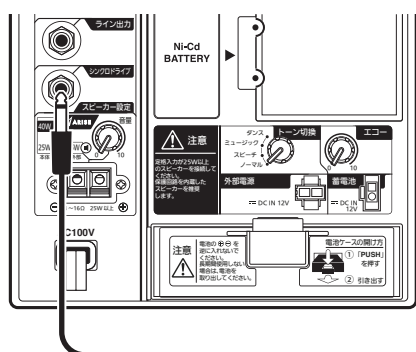
■接続のしかた

- ①接続する2台のワイヤレスアンプの電源を切ってください。
- ②2台のワイヤレスアンプのシンクロドライブ接続端子間を、適用コードで接続してください（下図参照）。
- ③2台のワイヤレスアンプの電源を入れてください。

で注意

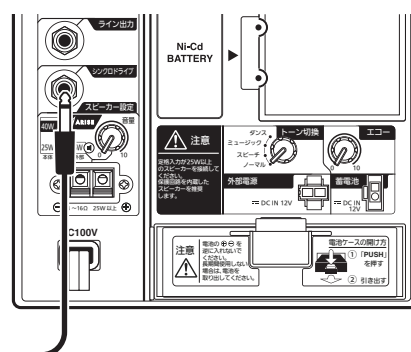
- 必ず両方のワイヤレスアンプの電源を切ってください。電源が入った状態で接続すると、スピーカーから大きな音が出ることがあります。
- シンクロドライブ接続端子と他の入出力端子を接続しないでください。
- シンクロドライブ機能使用時は、2台のアンプ間をシンクロドライブ接続端子以外で接続しないでください。
- 誤動作防止のため、シンクロドライブ時以外は、必ず適用コードを外しておいてください。

収納部



適用コードで
接続

収納部



【適用コードについて】

- ・ユニペックス製 ラインコードLM-610（10m）（別売）をご使用ください。
- ※コードの長さが不足する場合、必要な長さの2極大形単頭プラグ付1芯シールド線をご使用ください。コードの長さは最長20mです。

操作のしかた

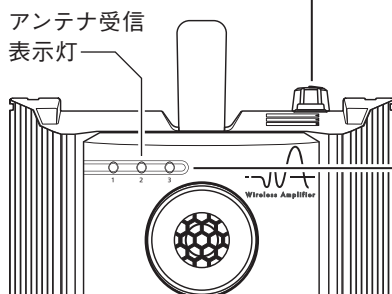
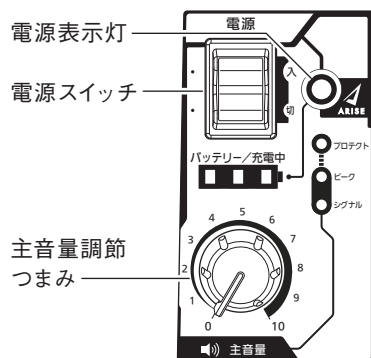
⚠ 注意

- ・各音量調節つまみは反時計回り最小の位置に合わせておいてください。
- ・主音量調節つまみは、接続された全ての機器の音量に影響します。音量を調節する際、主音量は徐々に上げていくことをおすすめします。

ワイヤレスマイクの使い方

1. 電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が点灯していることを確認してください（40W時：橙色、25W時：緑色）。ワイヤレスマイク音量調節つまみを回し、ワイヤレスチューナーの電源を入れると、アンテナ受信表示灯が赤色に点灯します。※別売のワイヤレスチューナーユニットSU-350を増設していないスロットの受信表示灯は点灯しません。）



2. ワイヤレスマイクの電源スイッチを「ON」にする

アンテナ受信表示灯が赤色から緑色の点灯に変わります。



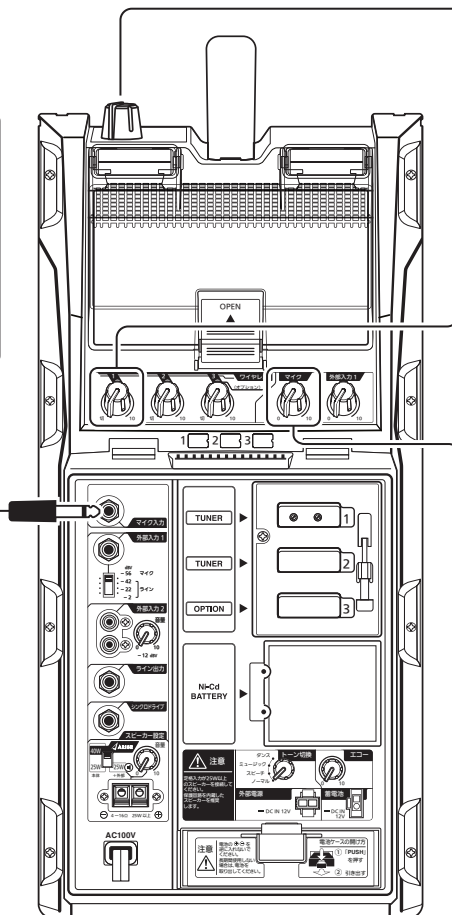
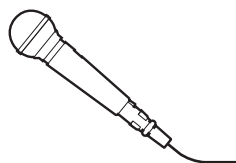
3. ワイヤレスマイクの音量を調節する

主音量調節つまみとワイヤレス1の音量調節つまみで、ワイヤレスマイクの音量を調節してください。

有線マイクの使い方

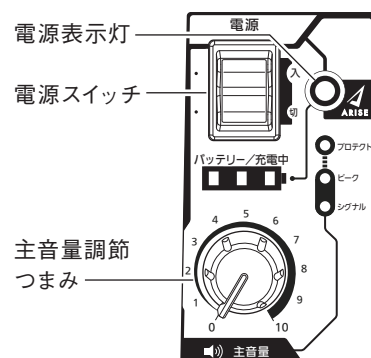
1. 有線マイクを接続する

マイクプラグをマイク入力ジャックに接続する。



2. 電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が点灯していることを確認してください（40W時：橙色、25W時：緑色）。



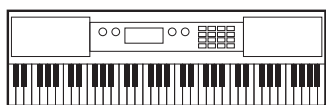
3. マイクの音量を調節する

主音量調節つまみとマイク音量調節つまみで、マイクの音量を調節してください。

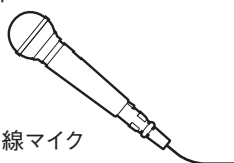
外部入力の使い方

1. 外部機器を接続する

外部入力1は、モノラルフォーンジャックです。入力感度を切換えて、マイクやキーボードなど色々な機器を接続できます。



キーボード



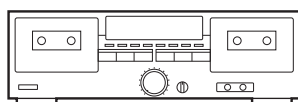
有線マイク

外部入力2は、ステレオピンジャックです。ライン入力専用です。音量調節つまみで入力レベルを調節できます。

※ステレオ入力した場合でも出力はモノラルになります。



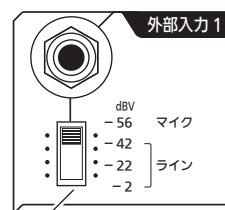
CDプレーヤー



カセットデッキ

2. 入力感度を設定する

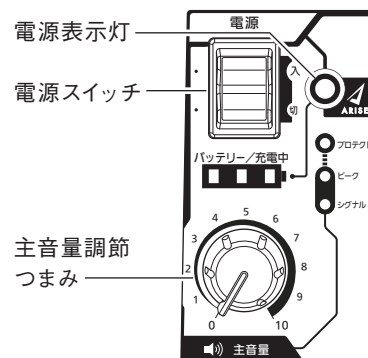
外部入力1に接続する場合、接続する機器にあわせて、入力感度を切換えてください。



入力感度
切換スイッチ

3. 電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が点灯していることを確認してください(40W時: 橙色、25W時: 緑色)。



主音量調節
つまみ

4. 外部機器の音量を調節する

主音量調節つまみと、外部入力1、2音量調節つまみで、外部機器の音量を調節してください。

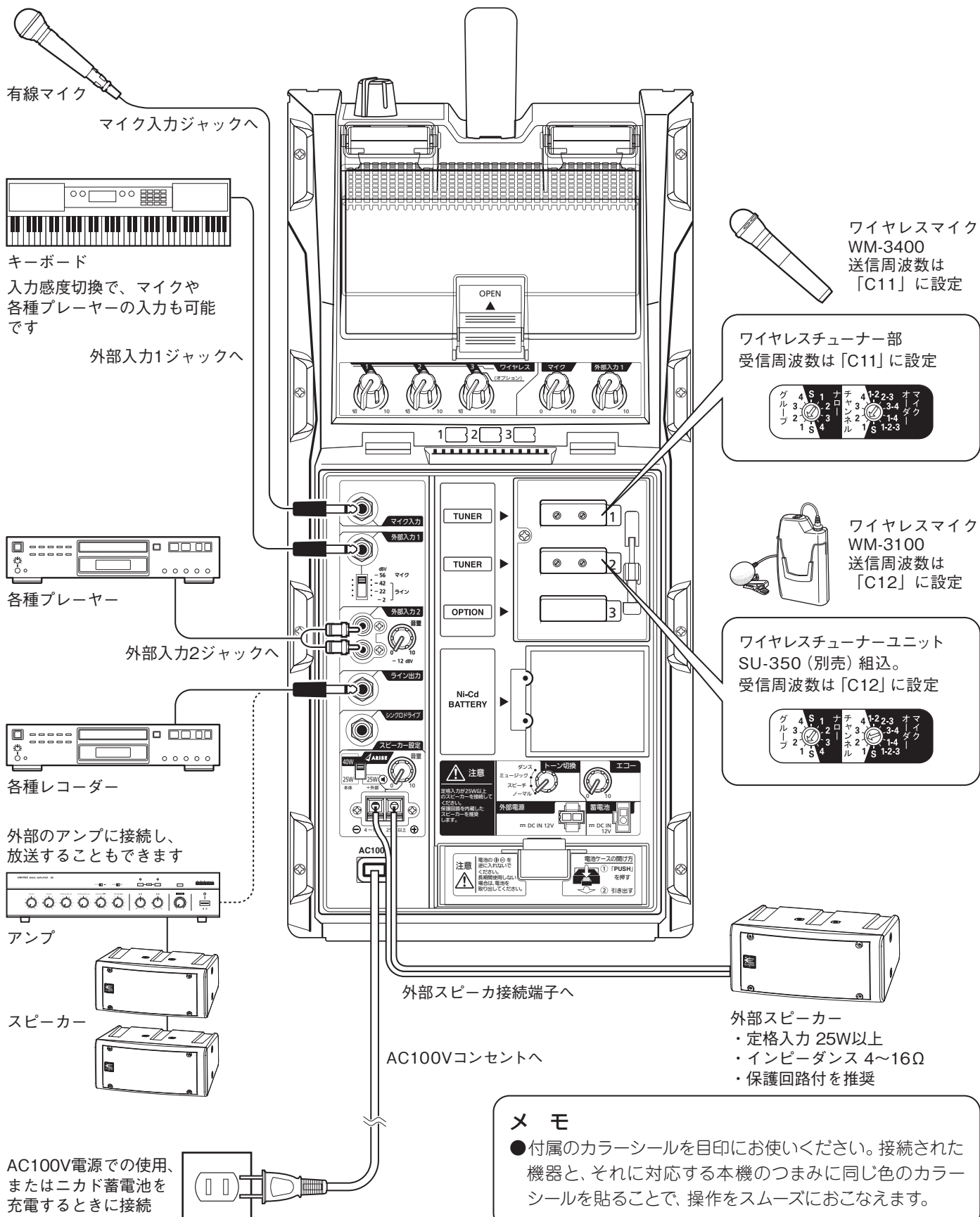


外部入力2
音量調節つまみ

接続例

お願い

- ご使用時は、必ず収納部ふたを閉めてください。接続、設定などの作業が完了しましたら、全てのコードをコード通し穴から引き出し、収納部ふたを閉めてください。



点検方法

ほんのちょっとしたことで正常に動作せず、故障かな?と思うことがあります。次の要領で点検してみてください。



警告

- 次の方法で点検されても正常に動作しないとき、または使用中に急に異常が発生したときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙などの異常が無いことを確認し、販売店などへご連絡ください。
- 本機は絶対に分解しないでください。感電の恐れがあります。修理は必ず販売店などにご依頼ください。

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
	乾電池または蓄電池は入っていますか。	確認と同時に電池の消耗も確認してください。
	電源スイッチは入っていますか。	電源スイッチを入れてください。
	各音量調節つまみが絞られていませんか。	各音量を適当な音量に調節してください。
全く動作しない (電源表示灯が点滅)	乾電池または蓄電池が消耗していませんか。	乾電池の場合は全部新しい電池に取り換え、ニカド蓄電池の場合は充電をおこなってください。
全く動作しない (プロテクト表示灯が点灯)	外部スピーカー接続端子が短絡していませんか。	外部スピーカー及びその接続を確認してください。
	大音量での長時間使用などにより、本機の増幅部の温度が上昇していませんか。	電源スイッチを切り温度を下げてください。温度が上昇する原因を確認してください。
有線マイクの音声のでてこない	マイクのトークスイッチは入っていますか。	マイクのトークスイッチを入れてください。
	マイクプラグは確実に差し込まれていますか。	確認してください。
	マイクは正常ですか。	他のマイクと交換してください。
	マイク音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
接続機器の音がおかしい または小さい	接続機器のインピーダンスは合っていますか。	確認してください。
	DC電源で使用の場合、乾電池またはニカド蓄電池が消耗していませんか。	乾電池の場合は全部新しい電池に取り換え、ニカド電池の場合は充電をおこなってください。
	接続機器及び本機の外部入力音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
内蔵スピーカーの音がでない	音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	確認してください。
外部スピーカーの 音がでない	音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	確認してください。
	正しく接続されていますか。	
	スピーカー出力切替スイッチが「40W側」になっていませんか。	スピーカー出力切替スイッチを「25W側」にしてください。
音声にエコーがかかっている	エコー音量調節つまみが最小の位置になっていますか。	エコー音量調節つまみを最小の位置にしてください。
音声之急に小さくなる (プロテクト表示灯が点灯)	保護回路が動作していませんか。	使用環境を再確認してください。
音声途切れる (プロテクト表示灯が点滅)	保護回路が動作していませんか。	音量を少し下げてください。

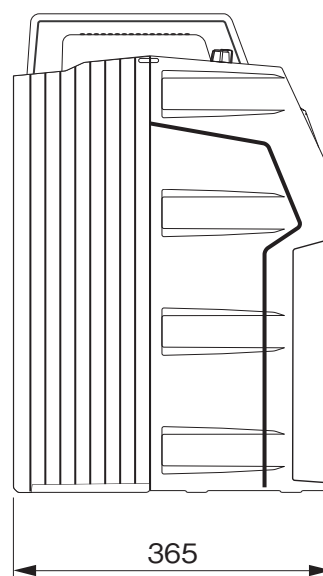
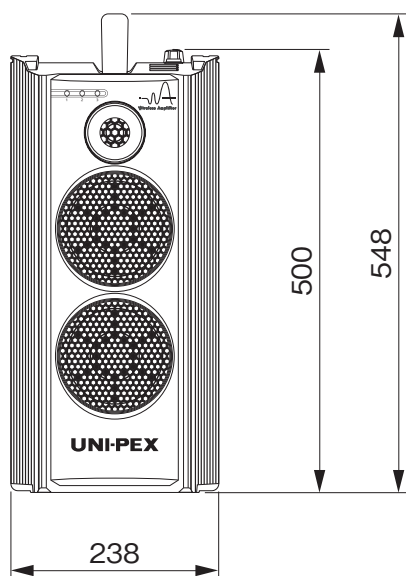
ワイヤレスチューナー部

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が点灯していますか (40W設定時：橙色、25W設定時：緑色)。	電源スイッチを入れてください。
	アンテナ受信表示灯は赤色または緑色に点灯していますか。	ワイヤレスマイクの音量調節つまみを回し、ワイヤレスチューナーの電源をONにしてください。
ワイヤレスマイクの音声 のでてこない	マイクの電源スイッチは入っていますか。	マイクの電源スイッチを入れてください。
	マイクの電池が入っていますか。	確認と同時に電池の消耗も確認してください。
	マイクとワイヤレスチューナー部のグループ／チャンネル番号の設定は同じですか。	グループ／チャンネル番号を確認してください。
	デッドポイントの位置ではありませんか。	確認してください。
	ワイヤレスマイク音量調節つまみが絞られていませんか。	適当な音量に調節してください。

定 格

使 用 電 源	AC100V 50/60Hz 単2形乾電池(R14P/LR14)×10 専用ニカド蓄電池(WBT-2001) DC10V~16V(12Vバッテリー)※外部DC電源コード LD-WA7を使用
定 格 消 費 電 力	30W(電気用品安全法による測定方法に基づく)
消 費 電 流	[AC時]0.62A(25W出力時) [DC時]2.1A(20W出力時)
定 格 出 力	[AC時](40W設定時)40W×1/(25W設定時)25W×2 [DC時](40W設定時)22W×1/(25W設定時)20W×2 ※スピーカー出力切替スイッチにて出力を切替可能
最 大 出 力	[AC時](40W設定時)60W/(25W設定時)35W [DC時](40W設定時)30W/(25W設定時)25W ※スピーカー出力切替スイッチにて出力を切替可能
ひ ず み 率	5%以下(1kHz 定格出力時)
周 波 数 特 性	50Hz~15kHz(偏差-2dBV±3dB)
ト ー ン 切 換	4種類(ノーマル/スピーチ/ミュージック/ダンス)
入 力 感 度 及 び インピーダンス	マイク入力 : -56dBV±3dB 600Ω 不平衡 音量調節器付 3極大形単頭ジャック 外部入力1 : 入力感度切替スイッチ付(-56dBV 600Ω/-42dBV 600Ω/-22dBV 10kΩ/-2dBV 10kΩ)±3dB 不平衡 音量調節器付 3極大形単頭ジャック 外部入力2 : -12dBV±3dB 10kΩ 不平衡 音量調節器付 ピンジャック×2 チューナーユニット(3系統) : -26dBV±3dB 10kΩ 不平衡 音量調節器付 オプションユニット(2系統) : -4dBV±3dB 10kΩ 不平衡
信 号 対 雑 音 比	70dB以上(オプションユニット部を除く)
ラ イ ン 出 力	0dBV±3dB 1kΩ 不平衡 3極大形単頭ジャック
シンクロドライブ	不平衡 2極大形単頭ジャック 最大ケーブル長: 20m
外部接続スピーカー	適合インピーダンス 4Ω~16Ω 許容入力 25W以上
使 用 ス ピ ー カ ー	ウーハー(13cm)×2 コーン型スピーカー ツイーター(2.5cm)×1 ドーム型スピーカー
ア ン テ ナ 方 式	ダイポールアンテナ×2(内蔵)
動 作 表 示	電源表示 : 発光ダイオード 25W設定時(緑)/40W設定時(橙) バッテリー/充電中表示 : 発光ダイオード 充電時(橙)/通常時(電池駆動時)(緑) シグナル/ピーク表示 : 発光ダイオード 適正時(緑)/過大時(橙) プロテクト表示 : 発光ダイオード 増幅部保護作動時(赤)/スピーカー保護機能作動時(赤 点滅) チューナー受信表示 : 発光ダイオード 受信時(緑)/待機時(赤)/設定外(赤 点滅)
使 用 温 度 範 囲	0℃~+40℃
外 装	ケース(ABS樹脂) : [前面中央]マンセルN9.5(近似色 白)、[その他]マンセルN2(近似色 黒) 保護カバー(PC樹脂) : スモークグレー
寸 法	幅 238mm 高さ 548mm 奥行 365mm
質 量	約9.1kg(乾電池、蓄電池を除く)
防 水 性 能	IPX4(防まつ形) ※保護カバーと収納部ふた装着時
付 属 品	取扱説明書(保証書付) 1、電池ケース 1、マイクホルダー 1、外部機器接続用ケーブル 1、 チャンネル表示ラベル 1、設定用ドライバー 1、カラーシール 1
適 合 品	SU-350(ワイヤレスチューナーユニット)、MU-600(入力ユニット)、CDU-104(CDユニット)、 SDU-201(SDユニット)、WBT-2001(ニカド蓄電池)、LD-WA7(外部DC電源コード)、WA-1K(収納カバー)
チューナー部	
受 信 周 波 数	322.025MHz~322.150MHz、322.250MHz~322.400MHz(25kHz間隔13波)
出荷時設定受信周波数	322.050MHz(C11[グループ番号: 1/チャンネル番号: 1])
受 信 方 式	PLL制御スーパーヘテロダイン方式
受 信 感 度	20dBμV

外觀寸法図 (単位:mm)



サポートのご案内

■ 修理・お取扱い・お手入れについてのご相談・ご依頼は、お買い上げの販売店にお申し付けください。
販売店に修理を依頼する場合は、下記の項目をお確かめください。

①品 名 ②品 番 ③お買い上げ日 ④故障の状況（できるだけ具体的にお願いします）

■ 販売店がご不明な場合は、最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。

営業所情報はホームページ
もしくはQRコードにアクセス
してください。
<http://www.unipex.co.jp>



■ その他ご不明な点は、お客様ご相談センターへご相談ください。

UNI-PEX 0120-56-5245 （通話料無料）

お客様ご相談センター 受付時間／9:00～17:00（土・日・祝日除く）
PHS・携帯電話からのご利用は、
072-855-3334（通話料がかかります）

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

お客様ご相談センターにおけるお客様の個人情報は、
ご相談対応、修理およびその確認に使用いたします。
個人情報は適切に管理し、正当な理由がある場合を
除き、第三者に提供または開示いたしません。

ワイヤレスアンプ WA-371 保証書

製造 番号			
保証 期間	お買い上げ日 年 月 日より 電子回路部1ヶ年、ケース（外装部）6ヶ月		
お 客 様	お名前 見 本 様 ご住所〒 電話() -		
販 売 店	店名・住所 印 電話() -		

本書は本書記載内容で無料修理を行なうことを保証するものです。
お買い上げの日から上記期間内に故障が発生した場合は本書を提示のうえ、
お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

製造元 **日本電音株式会社**

発売元 **ユニペックス株式会社**

保証規定

この保証書は日本国内においてのみ有効です。この保証書は再発行いたしませんので大切に保管し
てください。この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
(This warranty is valid only in Japan)

無料修理保証の範囲

- ①保証期間内において、取扱説明書などに従った正常な使用状態において故障した場合に無料で修理
いたします。
- ②修理の際は必ず保証書の提示があること。
- ③当保証書の所定項目に必要事項が記入され、故意に字句を訂正していないこと。

無料修理保証の免責範囲

- （次のような場合は保証期間内でも有料修理となります。）
- ①使用上の誤り及びお取扱いの乱用などによる故障、磨耗。
 - ②不当な修理改造による故障、損傷。
 - ③正常なご使用でも、消耗部品の自然消耗、磨耗、劣化によるもの。
 - ④お買い上げ後の落下、傷など、お取り扱い上に起因するもの。
 - ⑤火災、水害、落雷、地震、その他の天災によるもの。また塩害、有毒ガス、異常電圧などが原因の損傷。
 - ⑥故障の原因が本製品以外の機器の影響によるもの。
 - ⑦常識的に正常な動作状態であるにもかかわらず、修理または部品交換などの要求をされる場合。